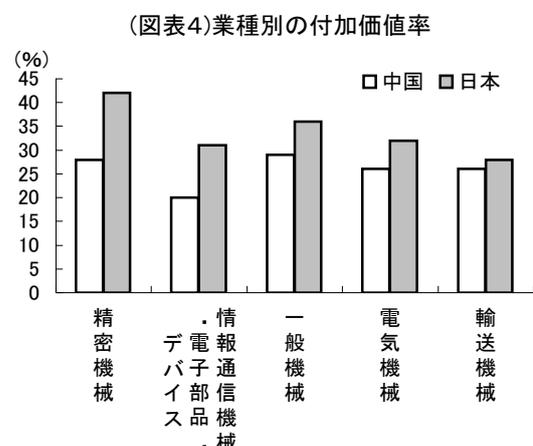
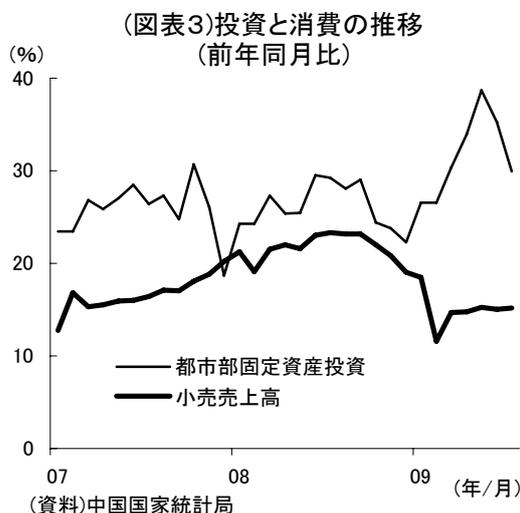
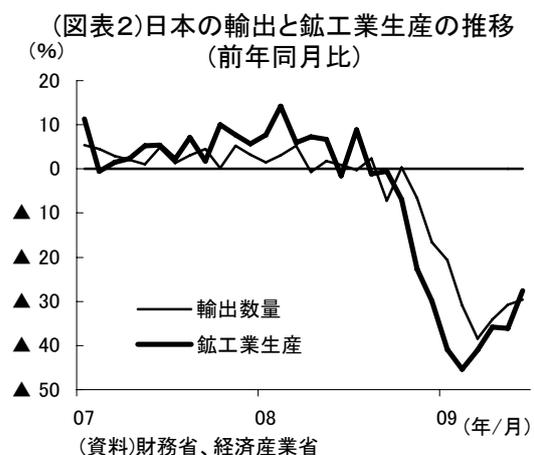
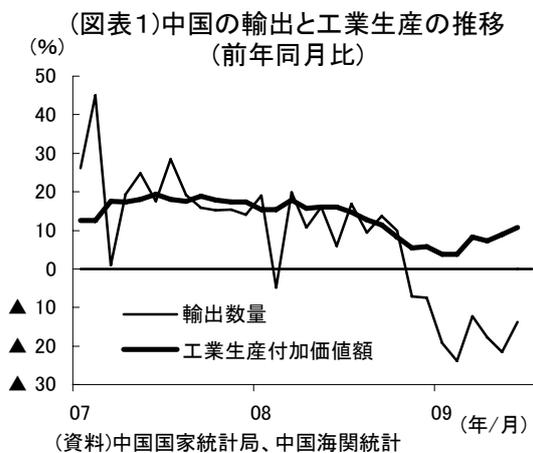


輸出減少下、高い伸びを維持する中国の工業生産

- (1) 中国の1～6月の輸出数量は前年同期比▲18.2%の大幅減(図表1)。もともと、同期の工業生産付加価値額は同+7.0%と、減速しながらもプラスを維持。輸出依存度(輸出/GDP)が中国(32%)より低い日本(16%)では、鉱工業生産が輸出に連動して急減したことは対照的な動き(図表2)。この原因として以下の2点が指摘可能。
- (2) 第1に、大規模な景気対策。中国は、GDP比13%に上る公共投資や金融緩和策により、固定資産投資の伸びが加速(図表3)。また、自動車減税や家電製品に対する補助金など一連の消費刺激策により、小売売上高も増加ペースを持続。投資と消費の拡大が、素材業種や内需型加工業種の生産を押し上げ。
- (3) 第2に、輸出減少のマイナス影響が小さい産業構造。中国の輸出産業は、部品・原材料を輸入し、それを最終加工して輸出するという生産構造。そのため、輸出産業が中国国内で生み出す付加価値や生産波及効果は小。実際、機械産業全体の付加価値率をみると、日本の31%に対し、中国は25%(図表4)。
- (4) 今後を展望すると、外需には不透明感が残るものの、中国政府が景気刺激スタンスを維持するとみられることから、工業生産は高めの伸びを維持する見通し。



(資料)経済産業省「平成19年工業統計調査」、中国統計年鑑2008をもとに日本総研作成
(注)付加価値率=付加価値額/出荷額、2007年の値。